

【書道】

<学習内容について>

「漢字の書」と「仮名の書」さらに「漢字仮名交じりの書」の互換性を重視する。日本文化や中国文化の代表的存在であると言われる書道の構築性を通じて、豊かな心情と感性を確立させる。さらに世界の文化と協調できるよう意識の高揚を図る。

<教材について>

教科書：『書道 I』東京書籍

学習書：使用しません。

<レポートと実技テストについて>

レポートの回数は半期で3回、年間で6回です。実技作品は、各自の書道用具で作成します。実技テストの回数は半期で1回、年間で2回です。書道用具は必ず持参すること。不備の場合は、受験できません。

教科書の対応ページと内容は以下の通りです。

[前期]

第1回：「書写から書道へ 漢字の書」

教科書 P2～P69

第2回：「漢字の書(楷書)」

教科書 P16～P57

第3回：「漢字の書(行書)」

教科書 P38～P59

[後期]

第1回：「漢字の書(草書・隸書・篆書)」

教科書 P60～P73

第2回：「仮名の書」

教科書 P75～87

第3回：「仮名の書 漢字仮名交じりの書」

教科書 P88～129

<学習の進め方について>

レポートの作品づくりは、毛筆と硬筆を使用します。家庭での学習と実技テストは、各自の書道用具を使用することを義務付けております。ただし、スクーリング時に毛筆活動が有効な場合には、指導者が書道用具を準備します。基本的には、ボールペン(赤色以外の見易い色)か鉛筆(2B以上)を使用します。

<スクーリングについて>

前期・後期ともに3時間のスクーリングに出席することが必要です。

スクーリング時に配布する資料も試験範囲に含むこともありますので、積極的に出席してください。

<評価について>

評価は、試験成績と平常点(レポートの成績、実技成績、学習態度)を以下の観点をもとに総合して100点法で行い、30点以上を合格とする。

[知識・技能]

- ・「書写から書道へ 漢字の書」では、用具・用材の特徴と表現効果が理解できているか。
- ・「漢字の書(楷書)」では、日本及び中国などの文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、鑑賞の方法等ができているか。
- ・「漢字の書(行書)」では、書風と用筆・運筆との関わりについて理解できているか。
- ・「漢字の書(草書・隸書・篆書)」では、書風と用筆・運筆との関わりについて理解できているか。
- ・「仮名の書」では、書風と用筆・運筆との関わりについて理解できているか。
- ・「仮名の書 漢字仮名交じりの書」では、書風と用筆・運筆との関わりについて理解できているか。

[思考・判断・表現]

- ・「書写から書道へ 漢字の書」では、書写で学んだ全体構成や目的に即した表現になっているか。
- ・「漢字の書(楷書)」では、古典の価値と根拠を理解できているか。書体に即した用筆・運筆ができているか。
- ・「漢字の書(行書)」では、書風に即した用筆・運筆が理解できているか。
- ・「漢字の書(草書・隸書・篆書)」では、各古典の価値と根拠について、書の良さや美しさを味わっているか。
- ・「仮名の書」では、書風と用筆・運筆に工夫がなされているか。日本文化も理解しているか。
- ・「漢字仮名交じりの書」では、創造された作品の価値とその根拠について考え、良さや美しさを味わっているか。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・すべてにおいて意欲的に取り組んでいるか。